

モンゴル国から視察に来られました

平成27年5月12日（火）、モンゴル国からこんごう福祉センターの視察に来られました。

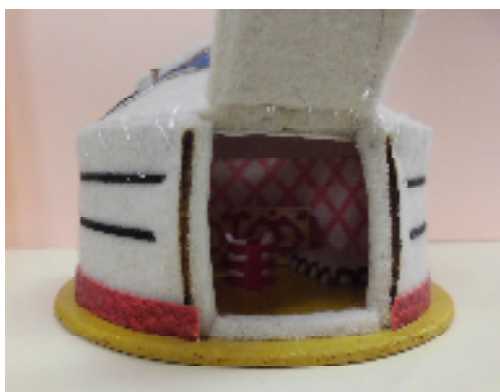
自閉症児ご本人とご両親、保護者協会代表、教育科学省教育研究所職員、障がいに寄り添う特別支援学校教員等11名、引率者3名の合計14名での来所でした。

今回は、①学校教育（特別支援学校と普通学校）、②国及び地方公共団体、民間組織による障がい者援助活動、③家族の団体とその活動、について学ぶことを目的として、5月8日から5月17日の間で、大阪、京都、滋賀を訪れたそうです。

当日は、午前中に富田林支援学校を視察され、午後から当事業団の大阪府立金剛コロニーしいのき寮（福祉型障害児入所施設）、かなびのさと（特別養護老人ホーム）、すくよか（医療型障害児入所施設）を視察していただきました。自閉症支援の現場では、スケジュールボードの活用方法等について質問されたり、小集団での個別支援の様子に大きくうなずいておられる姿等も見られ、精力的に視察されていました。「日本では、生涯にわたり、きめ細かく受け入れ施設があることが印象深かった」「心から支援されている」との感想をいただきました。

視察案内には、当事業団のじょぶライフだいせんで支援員として働いているモンゴル出身のスレンジャウ バトスレンさんが駆けつけ、通訳をかってくれました。普段モンゴル語に馴染みもなく、担当者はどうなることかと不安いっぱいでしたが、見事な通訳でした。

視察終了後、フェルト素地のゲルの模型、遊牧民族にとって暮らしを支える、とても大切な「5家畜」（モンゴル語で、タワン ホシヨー マル（таван хошуу мал）



「ゲルの模型」



「5家畜の壁掛け」

が連なった壁掛けをお土産にいただきました。

家畜は、上から、ラクダ、ヤギ、子牛、羊、馬が並んでいます。かわいいお土産をありがとうございました。



「モンゴル国の国旗」

